

平成 2 5 年 夏 の 気 温 観 測 結 果

～今年の横浜の夏、記録的な暑さ！～

環境科学研究所

○山下 理絵

鈴木 麻菜

1 はじめに

横浜市環境科学研究所では、市内のヒートアイランドの実態を把握するため、2002年から市内の気温観測を行っている。気温観測地点は、2002年14地点、2003年と2004年は31地点、2005年から約60地点まで増やし、昨年からは43地点で観測を行っている。今回、2013年夏季（7～8月）の気温観測結果を解析したので概要を報告する。

2 観測方法

横浜市内の小学校42地点及び当研究所の百葉箱内にデータロガー付サーミスタ温度計を6月に設置した。43地点の観測位置を図-1に示した。観測は1時間毎正時の瞬間値の気温をデータロガーに蓄積し、9月上旬にデータの回収を行った。気温の分布図は、最小二乗法(Kriging)による空間予測による補間を行い、GISソフトによって作成した。横浜地方気象台の観測値は横浜地方気象台提供による。

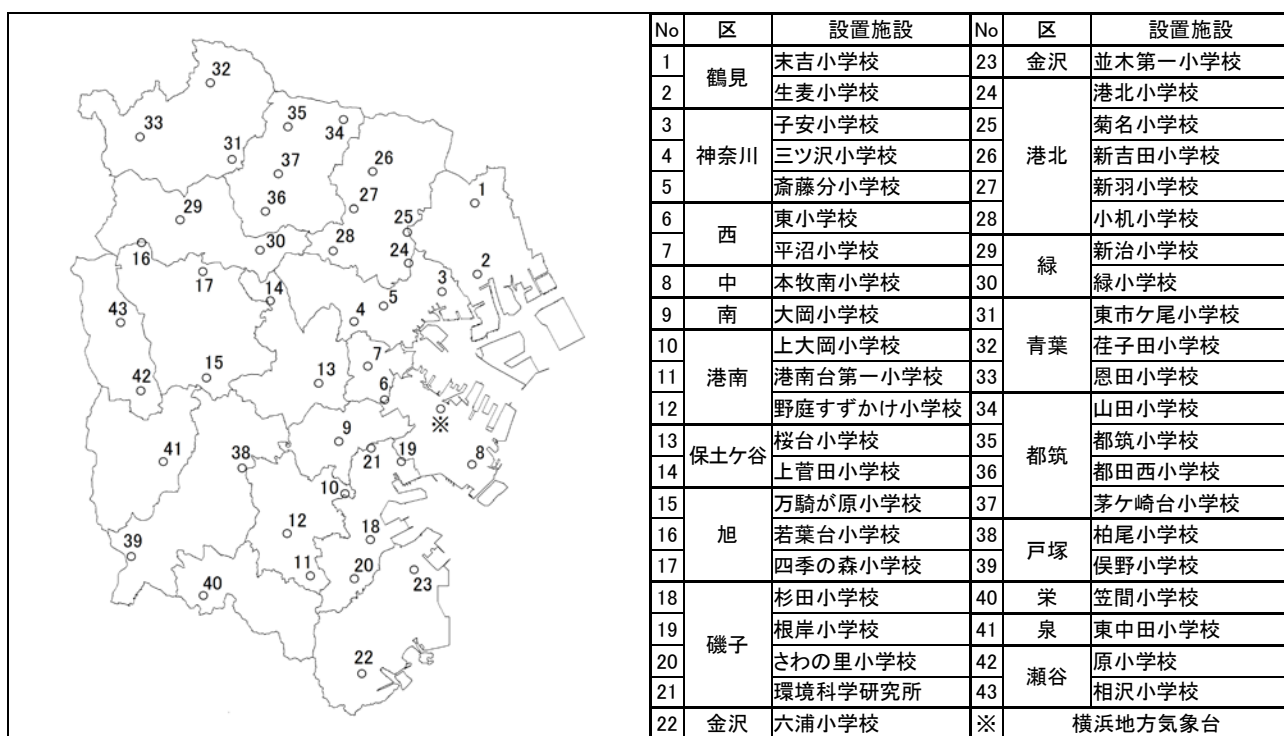


図-1 観測地点

3 結果

(1) 今年の夏の特徴

今年の夏は、7月上旬と8月上旬後半から中旬にかけて太平洋高気圧におおわれ、晴れて厳しい暑さが続いた。全国的に高温で、平成22年以来3年ぶりの記録的な暑さとなった。横浜市の大半の地点において最高気温の記録を更新した。

(2) 平均気温分布 (図-2)

平均気温は、北東部（鶴見区、港北区、都筑区など）で高温となる傾向がみられた。一方、栄区や金沢区の円海山周辺地区、瀬谷区、旭区の大池・今井・名瀬地区といった大規模な緑地がある地域では低温となる傾向がみられた。

港北区新吉田東で最も高い 28.3℃、緑地に隣接した旭区大池町で最も低い 26.7℃を観測し、観測地点間で最大 1.6℃の差がみられた。

(3) 熱帯夜日数分布 (図-3)

中心部（西区など）や臨海部（鶴見区、神奈川区など）で熱帯夜が多く観測された。

神奈川区新子安で最も多い 39 日、磯子区上中里町、緑区新治町で最も少ない 16 日を観測し、観測地点間で最大 23 日の差があった。（横浜地方気象台では 27 日）。

(4) 真夏日日数分布 (図-4)

北東部（鶴見区、港北区、都筑区など）で高温となる傾向がみられた。

真夏日日数は鶴見区生麦で最も多い 50 日、港北区港南台、港南区野庭町で最も少ない 37 日を観測し、観測地点間で最大 13 日の差があった（横浜地方気象台では 44 日）。

(5) 猛暑日日数分布

猛暑日日数は港北区小机町で最も多い 18 日、旭区大池町、磯子区上中里町、金沢区六浦、戸塚区俣野町で最も少ない 2 日が観測された（横浜地方気象台では 4 日）。

(6) 最高気温と「最低気温の最高値」

最高気温は、8 月 11 日午後 2 時に都筑区長坂で 39.9℃が観測された（横浜地方気象台の最高気温は同日の 37.4℃）。また、8 月 10 日から 11 日にかけての夜間において気温が下がらず港北区新吉田東で 30.0℃の「最低気温の最高値」が観測された。

4 まとめ

横浜市内 43 地点の 2013 年夏季（7～8 月）の気温観測データを用いて、平均気温、熱帯夜日数、真夏日日数、猛暑日日数などの解析をした結果、横浜市の中心部と北東部で高温になるヒートアイランド現象が、昨年同様にみられた。

